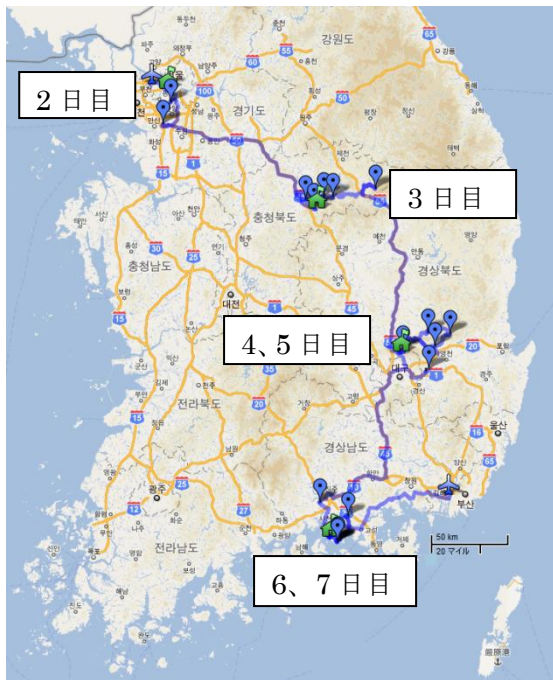


野外巡検Ⅱ（韓国）



2012年2月20日~26日、6泊7日の韓国巡検に参加しました。

巡検に行く前には、事前準備として、東アジアのテクトニクス、花崗岩の成因と大陸地殻の形成、古気候変動と海進・海退、白亜紀末の大量絶滅イベント、ストロマトライトと、5つの班に分かれ、それぞれ調べたことを発表し合い、その内容をガイドブックにまとめました。

図1に巡検の全ルートを示します。1日目の夕方にソウルから韓国入りし、6日間かけて様々な岩石、地質、化石の観察をしながら南下し、釜山から帰国しました。

図1 Google Map より 韓国巡検ルートマップ 3年生の森大樹さんが作成

2日目は、ソウル大学を訪問し、Cho教授に韓国の地質について講義していただき、講義後はお昼ご飯をご馳走になりながらソウル大の学生さんとも交流をしました。その後、Cho先生に案内してもらって日本では見ることの出来ない先カンブリア時代のgneiss、地震の化石、quartziteの露頭（図2）を観察しました。

3日目は、沃川盆地にて、先カンブリア時代～古生代初期の堆積岩や火成岩を原岩とする変成岩類の露頭や、先カンブリア時代とカンブリア紀の不整合露頭を観察しました。



図2 京畿陸塊のquartziteの露頭



図 3 華山環状火成岩体の火砕岩類・貫入岩類の露頭

4日目は、Park 先生の案内で慶尚盆地北部にて、白亜紀の花崗岩体、周囲の岩石との接触面、接触変成岩類の露頭や、白亜紀の華山環状火成岩体の火砕岩類・貫入岩類の露頭（図3）を観察しました。また、岩石に含まれている鉱物や、粒径などを観察することにより、この露頭はどのようにしてできたのか、例えば、マグマが貫入してできたのか、火砕流が流れてできたのかなどを先生方の指導も受けながら、自分たちで考えました。

5日目は、梁教授の案内で、慶尚盆地北部にて、非海成下部白亜系慶尚累層群上部の淡水成ストロマトライト（図4）を、洛東川沿いの露頭にて、非海生二枚貝類の産状を観察しました。右図のストロマトライトは、ものすごく巨大でしたが、別の露頭では、直径40cmくらいのストロマトライトもあり、韓国の「国宝」であるにもかかわらず民家の石垣に使われていたりもしました(笑)。また、広い露頭で、貝化石を探すのは、宝探しみたいで楽しかったです。



図 4 ストロマトライト



図 5 鳥盤類の足跡化石

6日目は、慶尚盆地南部にて、竜脚類の足跡化石、ripple mark（波の化石）、rain prints（雨の化石）などの堆積構造の観察をしたり、徳明里付近の海岸で恐竜や鳥類の足跡化石（図5）を観察したりしました。足跡化石では、その大きさに驚き、竜脚類や鳥盤類、獣脚類など、種類によって足跡の形が違うことを自分の目で見て確かめることができました。最終日は、固城恐竜博物館を見学し、展示されていた恐竜の全身骨格から、足跡化石の主は、どれくらいの大きさで、どんな格好で歩いていたのかを実感することができました。

海外巡検のいいところは、日本では見られない時代の地層が見られたり、その国の伝統的な食事（図6）や文化を体験できたり、海外の大学の学生と交流できたりすることです。また、別の大学で活躍されている教授方に英語で、講義をしていただいたり、説明していただけたりと貴重な体験ができました。



図 6 ある日の夕食 参鶏湯(サムゲタン:鶏の煮込み料理)

地球惑星環境学科では、今年の五月祭（5/19,20）で、「明日から使える地^{ムダじゃない}学知識」という企画名で、この韓国巡検についての展示も行う予定ですので、ぜひお越しください。

（地球惑星環境学科3年 久岡由実）